

死者を記念する

—古代ギリシアの墓辺図研究—

篠塚千恵子（武蔵野美術大学教授） 著

本体価 17,000円＋税

A5判上製函入 本文784頁 カラー口絵8頁

I S B N 978-4-8055-0792-6 C3071

前5世紀に都市国家アテネとその領域のアッティカ地方で葬礼に用いられた陶器の代表格が白地(しろじ)レキウトスと通称される香油容器である。器面に描かれた絵の美しさは格別である。初期には室内図も主題にとられたが、やがて墓と墓参者、あるいは死者と思しき人物の登場する「墓辺図」が流行した。

墓辺図がアッティカの葬礼図像として現れる政治的、社会的背景はどのようなものだったのか。生けるがごとき死者像の現れる墓辺図は現実にはどのような死者のために奉仕したのか。なぜ、遺族は愛する肉親の死を哀悼供養するためにかくも美しく、謎めいた図像を必要としたのか。

これらの疑問を、私は、前例のないやり方で解明しようと試みた。アッティカの墓地の歴史を遡り、陶器がどのようにして葬礼に用いられてきたか、そこにどんな葬礼図像が描かれたかを見直した。葬礼陶器の器形と葬礼図像の変遷を徹底的に辿って、墓の彫刻も含めたアッティカの墓の美術の歴史という大きな流れを通観した。その流れの中に白地レキウトスを位置づけ、考古学的文脈にできる限り沿いながら墓辺図を考察したのである。

(著者の言葉)

白地彩繪レキウトス アテネ考古学博物館19355「フィアレの画家」前435-430年アナヴィソスの石棺墓から出土 高さ36.8cm 白地彩繪レキウトス部分

中央公論美術出版

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-10-1 IVY ビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは

目次

序	補論 南イタリア陶器の墓辺図序説
第I部 前史	序 章
—アッティカの埋葬習慣と葬礼陶器の変遷	第1章 南イタリア陶器の墓辺図の作品資料について
第1章 葬礼図像の誕生、器形、ジェンダー	第2章 グラヴィーナ出土の墓辺図をめぐって
第2章 レキュトスの登場	第3章 コエフォロイ図像をめぐって
第II部 ルトロフォロス	第4章 ルカニアの「描かれたレキュトス」とコエフォロイ図像
第3章 前6世紀のプロテシス図像	第5章 南イタリアの墓辺図の開始とアッティカの影
第4章 ルトロフォロス再考	終 章
第5章 最初の墓辺図	文献略号・参考文献
—サッフォーの画家の黒像式ルトロフォロス	口絵・本論図版データおよび出典
第III部 白地レキュトス	補論図版データ・出典
第6章 白地レキュトスの墓辺図	地図
第7章 「描かれた墓」とデーモシオン・セーマ	ギリシア陶器の器形と名称
第8章 白地レキュトスの墓辺図の死者表現	南イタリア陶器の器形と名称
第9章 イメージの中の死者と考古学的文脈	あとがき
結	
補遺	

著者略歴

篠塚千恵子(しのづか・ちえこ)

1948年大分県生まれ。武蔵野美術大学教授。

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。横浜美術短期大学、東北芸術工科大学を経て現職。著書に『世界美術大全集第4巻 ギリシア・クラシックとヘレニズム』(共著、小学館、1995年)、『世界美術大全集第3巻 エーゲ海とギリシア・アルカイック』(共著、小学館、1997年)、『アフロディテの指先』(国書刊行会、2017年近刊)など。訳書にジョン・マーテンス著『メトロポリタン美術全集第2巻 古代ギリシア・ローマ』(福武書店、1987年)、ジュゼッピーナ・チェルリ・イレリ、青柳正規他編『ポンペイの壁画』I,II(共訳、岩波書店、1991年)、エリー・フォール著『美術史I 古代美術』(国書刊行会、2002年)、スーザン・ウッドフォード著『古代美術とトロイア戦争物語』(共訳、ミュージアム図書、2011年)など。

関連書籍

ギリシアの陶画家 クレイティアスの研究 本体価 36,000 円＋税

平山東子 著

B5判上製函入 本文 388 頁 折込図 4 頁 口絵 8 頁 図版 82 頁

ISBN 978-4-8055-0497-0

古代アッティカ杯 ギリシア美術の比例と装飾の研究 本体価 15,000 円＋税

関隆志 著

A5判上製函入 本文 408 頁 口絵 16 頁 挿図 80 点

ISBN 978-4-8055-0576-2